

悠久録

瞽女案内板建つ

4月15日市内草生津3丁目唯敬寺（えいきょうじ）の門前に新しく建つ長岡瞽女案内板の前には大勢の人が除幕を待っていた。朝から降り出した雨が本ぶりになった。ちょうど午後1時半前になると、雨がやんで、案内板を覆っていたテントが取り除かれた

越後は目の不自由な瞽女が最後まで残った地で、長岡には高田と並ぶ瞽女の一大集団があった。そこに長岡瞽女を偲ぶ案内板がどこにも建っていない。平成3年に瞽女唄の伝承と普及を目的に結成された瞽女唄ネットワークはどこかにそれを記念する案内板を建てたいと願ってきた

明治のころ四百人も瞽女集団がいて、それを当時の大工町にあった瞽女屋敷の戸主山本ごいに取り仕切っていた。その山本家の菩提寺が浄土真宗本願寺派唯敬寺であった

この寺で毎年瞽女の祭りである「妙音講」が開かれていた。かつて大勢の瞽女が各地を旅していたが、この日はどんなに遠くを旅していた瞽女も必ず集まった。瞽女の本尊が七福神の一人で、琵琶をもつ弁天様である

長岡瞽女屋は昭和20年8月1日の長岡空襲で焼失し、それ以後妙音講は途絶えたが、それを50年ぶりに復活したのが瞽女唄ネットワークである

去年は県立歴史博物館で「門付け芸」が国の助成対象となり、その予算をもとに唯敬寺さんの許可によりこの案内板を建てることができた。案内板のタイトルには「長岡瞽女頭山本ごいと唯敬寺」とつけられている。除幕式の後、唯敬寺の住職による「瞽女ご条目朗読」と越後瞽女唄・葛の葉会によって、瞽女唄の奉納があった。

(ひこぜん)